OB会だより

第58号

〈発　行〉
京都外国語大学
能楽部OB会広報部

はじめに

広報部部長　唐木 啓子

皆様、お変わりなくお過ごしでしょうか。現在、全国的に新型コロナウイルスの感染者数は減少傾向にありますが、まだまだ元のような暮らしに戻るには時間がかかりそうです。

今年のＯＢ会だよりをどのようにしたら良いか、昨年同様に悩みました。お伝えできる事が少ないし、一体どんな事が出来るだろう…しかし、そんな思いは島谷会長とお話しすることでどこかへ消えていきました。様々なことが制限されてしまう中でも、ＯＢ会だよりを発行する事は出来るのではないかと気がついたのです。

今号では、三月二十一日に行われた現役・ＯＢによる「謡の会」をメインに、新ＯＢの紹介、現役や忠樹先生からもひとこと頂いています。

ＯＢ会だよりを手に取った皆様ひとりひとりが、少しでもつながることが出来たらと願っています。

今号の注目記事

◆はじめに／能楽部ＯＢ会会長挨拶…1P
◆新ＯＢ会員紹介・現役部長挨拶…2P
◆令和三年謡の会開催…2P～3P
◆橋本忠樹先生「コロナに向き合って二年」／会計局からのご報告／編集後記…4P

厳しいコロナ禍に希望の光を

ＯＢ会会長　島谷 直見



平素は能楽部ＯＢ会へのご理解とご協力を頂きまして誠にありがとうございます。

昨年に引き続き、今年も緊急事態宣言が何度も再発出されました。宣言発出中は、基本的に学生の大学入構は禁止となり、リモート授業、クラブ活動は禁止となりました。

現役は四月の新入部員勧誘の為に、ユーチューブ動画クラブ紹介への投稿、勧誘ブース参加と、新入生獲得に努力をしていましたが、その直後の緊急事態宣言再発出と期間延長で、新入生との繋がりを持つことが難しい状況となりました。部室も使用禁止となり、お稽古ができない日々が長く続きました。

今現在、対面授業となりクラブ活動もやっと可能になり、少しお稽古を再開しています。ただ、今年の十二月「外大能」開催は極めて難しい状況です。

しかし、『外大能開催』の延期に少し希望を持ちながら、ＯＢ会として可能な限り現役のクラブ活動への協力と支援を続けたいと強く願っています。

ＯＢの皆様、コロナ禍中の能楽部活動へのご理解とご協力、何卒宜しくお願い申し上げます。

新OB会員紹介



会員 No.169
金光優衣

現役の頃は、いろいろな舞台に立たせていただき、たくさんのことを勉強させていただきました。しんどい事もありましたが、それ以上に楽しいことや貴重なことを経験できました。

また、素敵な仲間や頼りになる先輩方にも出会え、能楽部に所属してよかったと心から思います。

社会人になり、わたしは接客の仕事に就きました。緊急事態宣言の影響で大変なことも多いですが、毎日充実しています。仕事先が京都市から離れてしまったので、手伝えることは少ないかもしれませんが、ＯＧとして能楽部に何か貢献できたらいいなと思います。



会員 No.170
板谷海緒

昨年度三月に卒業致しました、板谷海緒と申します。

現在私はＩＴ業界で開発職の仕事をしていますが、御多分に漏れず新型コロナウイルスに振り回されている日々です。この度、原稿の依頼をいただいて気付きましたが、過去を振り返る余裕もないほど気を張った生活をしていたようです。

少しばかり肩の力を抜いて能楽部のことを思い返してみると、濃いメンバーだったな、と思います。再び集まる機会がいつ来るかわからない現状に心が沈みますが、そう思えるだけの人達に出会えたことに感謝します。

先を見通しづらい状況で能楽部の活動も不便を強いられているかと思いますが、私も何か力になれたらと思いますので、これからどうぞ宜しくお願い致します。



ＯＢ会の諸先輩方へ

部長　川田崚登



皆さん、ご無沙汰しております。能楽部部長をさせていただいておりますフランス語学科三回生の川田崚登です。

現在の能楽部は新型コロナウイルスの影響により、去年の春学期から部活動は勿論、部活の勧誘も満足に出来ていないのが現状です。正直に申しますと、能楽部の歴史の中でもかなり厳しい状況にあると言っても過言ではないと考えております。しかし、現役の部員はこれまで積み上げてきた六十年の歴史の重みを感じながら、部活動の存続に力を入れております。

去年は残念ながら外大能が開催できませんでしたが、今年こそは開催したいと考えております。開催できる運びとなった際は、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

令和三年謡の会

広報部　橋口莉奈

三月二十一日（日）、現役・ＯＢによる『謡の会』を開催しました。コロナ禍により外大能ができず、先生方・現役の中で「四回生の卒業までに何かできないか」という思いがありました。緊急事態宣言発出に伴い何度か延期となりましたが、無事開催できましたので、ご報告いたします。

大学の感染防止対策により部室の使用が制限されていたため、当日は右京ふれあい文化会館の和室を借りて行われました。現役五名、ＯＢ五名、今回初の試みとして、ＯＢ数名がＺＯＯＭにてリモート参加いたしました。橋本儀道先生・忠樹先生、島谷直見会長にご挨拶をいただき、以下三番を謡いました。

「鶴亀」現役
「羽衣」ＯＢ
「猩々」現役・ＯＢ

謡う時も常時マスク着用、ソーシャルディスタンス確保のため間隔を開けて座るなどの感染対策により、慣れない状況ではありましたが

無事最後まで謡いきることができました。リモート参加者へは忠樹先生の端末を通して会の様子が生配信され、途中バトンタッチし和樹君が配信をする微笑ましい様子も見られました。

最後に卒業生三名に花束を贈呈、一人ずつ挨拶をしてもらいました。課外活動が禁止され部室に入ることもできなかったこと、就職活動がオンラインで行われたことなど、コロナ禍で苦悩した一年が垣間見えました。最後には「大変なこともたくさんあったけど、能楽部に入ってよかった」との言葉があり、拍手に包まれながら会を終えました。

一時間ほどの会でしたが、現役・ＯＢどちらからも「良い会だった、できて本当によかった」との声が聞こえました。特に卒業生にとってはこの一年で唯一まともにできた部活動で、集合写真も良い記念になったようです。





一方、下回生からはクラブ活動の先行きを不安視する声もありました。一日でも早く収束し、以前のように外大能を開催できる日がくることを切に祈ります。



謡の会にZOOMで参加！

広報部　唐木啓子

初めてＺＯＯＭで参加する謡の会。一体どんな感じなのだろうと前日からワクワクしていました。

開始十分前からパソコンの前にスタンバイ。謡本を久しぶりに開いて眺めると、現役時代を思い出します。鶴亀、一回生の時にお稽古してくださった先輩の姿。わからないなりにも、先輩が手で叩くノリ地の心地よいリズムがとても楽しかった事。羽衣、シテの「のぅ～」が長くてどのくらいどう謡えばよいか戸惑ったなぁ…毎年謡い初めで謡ったことや能地についた事！

待機画面が一気に明るくなりました。和樹くん！あぁ島谷先輩！礒道先生や忠樹先生、画面の向こうに見えるひとりひとりに思わず手を振ってしまいます。



続いてＺＯＯＭ参加の鴨川さんや土井ちゃんの姿も。ふたりともお子さんと一緒です。

謡が始まりました。会場との時間差もあると思いましたので、大きな声で謡う事は出来ませんでしたが、会場の皆さんと合わせて謡を謡います。本当に同じ会場にいるような気持ちでした。そして、土井さんは赤ちゃんをあやしながら、鴨川さんは息子くんの手を取って羽衣を舞っています。とっても微笑ましくてあたたかな気持ちになりながら画面を見ていました。

コロナだから何も出来ないのではなく、出来る事を工夫してやることの大切さに改めて気づかされました。外大能はできなかったけれど、四回生のために謡の会を開催できた事が何より良かったと思います。開催のため日程や会場調整、当日の感染対策の徹底をしてくださった皆様。ＺＯＯＭの設定をしてくださった忠樹先生。

本当にありがとうございました。

新型コロナウイルスを受けての能楽界

京都外国語大学能楽部講師　橋本 忠樹

新型コロナウイルスに翻弄され続け二年。能楽界も催しの中止や延期が相次ぎました。「謡」を基本とし生きる舞台の仕事を根本から覆されてしまい、如何したものかと悩む日々です。

各業種色んな取り組みがされ様々生まれましたね。私もリモートお稽古を始めました。リアルでないお稽古には躊躇もありましたが「お稽古に興味があったけど時間が取れなかった。でもリモートなら出来ます」とお稽古を始めた方もいらっしゃいます。しかし空気が伝わらなくてはなかなか心には届かない気もして難しさも感じています。

また縁あってユーチューブも始めました。能と京都の事をお話しする動画。先日、地方にて能の講座をした時に、「ユーチューブを見て私を知って来ました」という方がいらっしゃいました。同じ曲目で、私が父の子方を、私の子方を息子がという親から子へ続く舞台の話にとても興味を持ったと仰っていただきました。

ネット活用などこれらの事は、舞台人としてあまり今まで目を向けなかったことです。コロナによって色々滅茶苦茶になりましたが、新しい発見もさせて貰えました。ただ私は今まで「空気」を一番大切に思ってきました。当たり前にあるもので、でも無くなると一番困るもの。舞台ではお客様との間にある空気。その日その日で変わる空気。生の舞台は空気が変わるから同じ役者、同じ演目でも違って見える。会議などもリモートでは空気が伝わずなかなか難しい事もありますよね。その空気をもって人の心に何かを届ける舞台を出来なくさせてしまった新型コロナのなんと憎い事か。ワクチンに望みをもっていますが、まだ数年は覚悟とかも言われてます。

我々は歴史の上に立ち、それを守り伝えるだけです。新しい事も取り入れつつ何とか、頑張ってまいります。文中で書きましたが、リモートでもお稽古を始めております。この機会に、再びお稽古の再開もお待ちしております。



橋本忠樹先生 公演のご案内 於:京都観世会館

◇**令和３年12月25日(土)「片山定期能12月公演」**
能「船弁慶 前後之替」シテ:橋本忠樹 子方:橋本和樹

◇**令和４年1月16日(日)「日本全国 能楽キャラバン五番能」**
能「葵上 梓之出」シテ:橋本忠樹

◇**令和４年6月26日「京都観世会例会６月公演」**
能「海士」シテ:橋本忠樹 子方:橋本和樹

◇**令和４年12月25日「片山定期能12月公演」**
能「富士太鼓」シテ:橋本忠樹 子方:橋本和樹

会計局より「ＯＢ会費について」

本年度も新型コロナウイルスの影響を考慮して、ＯＢ会費は集金致しません。連絡が遅くなりご心配をおかけしましたが、この場でご報告させていただきます。

編集後記

どこに行くにもマスク、アルコール消毒、手洗いうがい。人と会うことや出かけることを控える生活が始まってもう一年半以上過ぎようとしています。

例年よりもボリュームが少なくなってしまいましたが、ＯＢ会だよりを発行することで皆さまの心が少しでも明るくなると良いなという思いを一番に今年も発行いたしました。

元のような生活に戻るまでまだまだ時間がかかりそうですが、どうぞ健康にご留意頂き元気にお過ごしください。

《ＯＢ会だより第58号》
◎編集責任者　唐木啓子
☆編集委員　藤原敏起・土井智代
鴨川愛子・栗山　藍
塚田智恵・橋口莉奈
◎発行責任者　島谷直見